

第3回枕崎市地域公共交通活性化協議会 議事概要

令和4年2月21日(月) 午前10時00分

Camping Office osoto Makurazaki

【出席者】

委員28名中24名の出席あり

【内容】

1 開会

2 会長あいさつ

枕崎市長よりあいさつ

3 協議事項

(1) 地域公共交通計画(案)について

⇒(委員) 今回お示しいただいた20個の施策について、どの順番で進めていくのかも重要な部分だと思う。

(事務局) 全ての政策を横並びにし、この施策が実施できないと、この施策は実施できないといった施策相互の関係性をスケジュールとともにロードマップという形で整理して行く予定である。

⇒(委員) ⑨路線バス枕崎～金山線の運行形態の見直しについては、現状、路線バスタイプで運行しているが、施策案にあるように予約型乗合タクシーに移行する方がより地域に即したものになると思う。

⇒(委員) ⑱⑳のグリーンスローモビリティ関連については、鹿児島県の先進事例として枕崎市が率先して導入していただくのはよいと思う。ただし、コミュニティバスでは均一運賃を採用するパターンが多く、乗合バスの運賃を下回る場合が多い。そうすると、乗合バスの利用者がコミュニティバスに流れ、乗合バスの利用者減に繋がってしまう恐れがある。

⇒(委員) 会議資料の中で観光につなげるという表現もあったが、列車そのものを観光資源として活用するといった方向性も考えられる。市の予算レベルで可能なら、車両を借りて観光列車に造り替え、観光客誘致を仕掛けていくことも考えられる。

⇒(委員) 高齢化が進み、高齢者が免許を返納したくても、日常生活のために返納できない状況がある。桜山小学校のスクールバスを活用するという施策案も出たが、そうした取り組みを進めていただくと通院や買い物に出やすくなる。

⇒(委員) 免許返納した方もまだまだ元気である。ある地方自治体では電動自転車などへの補助を行い、車の代替手段として有効に使ってもらおうことで、これまでどおりの生活を送っていただくような取り組みもみられる。一方で、自分ではもう移動することができない方に対しては、手厚く支援を行う必要がある。このように、自分で動ける方とそうでない方を分けて、それぞれへの支援を考えていくことも重要と考えられる。

⇒(委員) 色々やってほしいというニーズはたくさんあると思うが、担い手がいるかどうかが実施上の制約になる。例えば、⑩⑫などの施策の実施にあたっては、事業者や地域の方を含めてどこまで出来て・出来ないのかなどを事業者や地域で考えていく会を設置し、協議を行っていくことが重要と思う。

⇒(委員) お示しいただいた基本方針から施策展開イメージまでの内容について、上位・関連計画との整合は図られているか。

(事務局) まちづくりに資する公共交通という視点から、計画策定開始の段階から、枕崎市総合振興計画との整合性に注意しながら策定を進めてきた。また、関連計画については、市の関連部署・担当課にも加わっていただくとともに、策定中のエネルギー関係のマスタープランとの整合などにも留意をして策定を進めてきた。

⇒(委員) 枕崎市でゼロカーボン宣言していれば、環境面・自転車利用・免許返納などと絡めることも考えられる。

(事務局) 環境基本計画の中でゼロカーボンに向けて取り組んで行くことは既に打ち出している。また、その方向に向けて、市としても取り組んでおり、その一つとしてエネルギー関係のマスタープランを策定しているところである。本計画の策定にあたっては、エネルギー関係のマスタープランと連携を図っていくことが必要であると認識している。

⇒(委員) 公共交通の中で現在上手く機能している取り組みなどがあれば、どのような工夫を行っているのか、また、そこをどのように広げていくのかなど、事業者・利用者とともに共有できるとよい。

(事務局) 成功例とまで言えるか分からないが、小中学生の社会科見学や、保育園・幼稚園の遠足などにおいて、より鉄道を利用してもらうために運賃の助成を行っている。今年度 200 名程度の利用に至っている。最近では、対象とする年齢層を拡大し、まだ実績はないが、老人クラブの活動などで鉄道を利用される場合にも運賃の助成を行うようにしている。加えて、タクシーの利用に関する助成も行っている。

⇒(委員) タクシーの助成については、年間 7,200 円の助成を市で行っていると思うが、例えば、金山地区に住んでいる方がまちなかのスーパーまで買い物に出るとなると、2~3 往復で 7,200 円を使い切ってしまう。一方で、市街地周辺に住

まわれている方だと5~6往復できる状況にある。そうしたことから、住んでいる場所や距離によって助成額を設定してほしいとの声がタクシー利用者の中から出ている。

⇒ (委員) 利用促進につながる具体的な企画やイベントを市が検討・提案していくことも必要になると思う。

(事務局) イベント開催や運賃助成などを組み合わせて、公共交通の利用を促進していくことは非常に重要なことだと思う。路線バスや鉄道については、本市と近隣自治体を跨ぐ路線であることから、近隣自治体とも連携しながら検討していくことが必要になると認識している。

⇒ (委員) ⑮新たな枠組みによる柔軟な移動手段の確保については、まずは路線バスやタクシーなど既存の交通機関の活用を進めてもらうことを優先していただきたい。そうした中で、交通事業者での対応が難しい部分に対しては、自家用有償旅客運送事業などを導入し、それでも対応できない場合には地域での支え合い(互助)が必要になると考えられる。いきなり地域での支え合い(互助)の方に走っていかないよう留意いただきたい。

(事務局) 新たな交通機関を導入していく際には、既存の交通機関との十分な調整を図っていく必要があると認識している。

⇒ (委員) ⑬乗り継ぎ環境の整備について、想定されている場所があれば教えていただきたい。

(事務局) 主要なバス停については、一例としては、サザン・リージョン病院前のバス停を想定している。高校生が多く利用しており、バス停の屋根が無い状況がある。利用者が多く待合環境の改善が必要なバス停を優先して整備を進めていきたいと考えている。

基本方針から現状の施策展開イメージ(案)までの内容について、原案のとおり承認。本日のご意見を踏まえ、事務局にて一部修正を行うものとする。

(2) その他

協議事項なし

4 その他

(事務局) 事務連絡

5 閉会